

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年11月15日
【四半期会計期間】	第44期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
【会社名】	株式会社安楽亭
【英訳名】	ANRAKUTEI Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柳 先
【本店の所在の場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号
【電話番号】	048-859-0555(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理部部长 小 川 貴 司
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号
【電話番号】	048-859-0555(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理部部长 小 川 貴 司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第2四半期 連結累計期間	第44期 第2四半期 連結累計期間	第43期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (千円)	12,108,684	10,261,896	26,538,735
経常利益又は経常損失( ) (千円)	1,133,891	20,794	758,701
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失( ) (千円)	1,353,236	118,253	1,120,743
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,349,102	119,026	1,093,126
純資産額 (千円)	4,321,064	4,271,792	4,391,202
総資産額 (千円)	22,572,754	20,515,428	23,487,256
1株当たり四半期(当期)純損失( ) (円)	632.93	55.31	524.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	19.1	20.8	18.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	222,537	2,703,093	590,166
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	13,160	97,086	59,001
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,271,751	163,505	1,016,452
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	5,074,964	2,155,235	5,116,119

回次	第43期 第2四半期 連結会計期間	第44期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	94.11	101.40

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による消費活動の冷え込みが続きました。国内のワクチン接種が進み新規感染者数の減少が見られるものの、感染再拡大の懸念も去ってはおらず、景気の先行きは依然として不透明な状況です。

外食産業におきましては、店舗営業時間、アルコール提供、会食人数及び時間等の制限および消費者の外出控えにより客数および客単価が低下したことに加え、輸入牛肉を始めとする食材等の価格高騰によって原材料調達コストが上昇しており、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、弁当等テイクアウトの対応強化、メニューのリニューアル、フェア開催等により集客に努め、さらに、一部店舗にて朝食サービスあるいは早い時間帯のランチの提供を開始するなど、新たな売上獲得の試みも進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高102億61百万円（対前年同期比15.3%減）、営業損失18億17百万円（前年同期は営業損失12億52百万円）、経常利益20百万円（前年同期は経常損失11億33百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億18百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失13億53百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は168店舗であります。内訳は直営118店舗、暖簾12店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、コロナ禍に伴う営業時間短縮やアルコール提供中止の影響のカバーを図るため、お客様に外食の楽しさを実感していただけるような施策を積極的に展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェアを開催したほか、昨年より販売強化しております食べ放題について夏限定「夏の元気復活メニュー」を投入してさらなる魅力向上を図りました。また、お一人様や少人数のご利用に向けて定食メニューをリニューアルするなどメニューのバリエーションの充実に取り組んでまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は39億12百万円（対前年同期比17.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は5億95百万円（前年同期はセグメント損失1億42百万円）となりました。

#### 七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、安楽亭業態同様、季節ごとのフェア実施を積極的に展開したほか、グラントメニューのリニューアルや「ランチ限定食べ放題」「期間限定ランチ」の販売等、お客様に七輪房の魅力をお伝えするための施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は6億99百万円（対前年同期比19.5%減）となり、セグメント損失（営業損失）は1億27百万円（前年同期はセグメント損失28百万円）となりました。

## アークミール

当社連結子会社である株式会社アークミールの各業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は直営143店舗であります。

なお、アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアノ（イタリアン）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態同様に積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェア開催、多彩な各種クーポン配信等の企画のほか、「新どんステ祭」（ステーキのどんの創業期メニューのリニューアル）、「ねぎとキャベツの巻きしゃぶ」（どん亭の新メニュー）、「激アツステーキ丼」（ステーキのどんの人気メニューのテイクアウト限定商品）の販売等、メニューの魅力向上に努めました。

以上の結果、アークミールの当第2四半期連結累計期間の売上高は55億41百万円（対前年同期比12.8%減）となり、セグメント損失（営業損失）は8億10百万円（前年同期はセグメント損失7億80百万円）となりました。

## その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営5店舗、FC4店舗であります。

なお、その他業態には、「えんらく（焼肉食べ放題）」、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は1億8百万円（対前年同期比27.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は46百万円（前年同期はセグメント損失35百万円）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ29億71百万円減少し、205億15百万円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ28億52百万円減少し、162億43百万円となりました。これは、未払消費税等の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ1億19百万円減少し、42億71百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、29億60百万円減少し、21億55百万円となりました。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、助成金収入の計上19億7百万円、未払消費税等の減少額11億12百万円等により27億3百万円の支出となりました。前年同期は2億22百万円の収入でありました。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億44百万円、敷金及び保証金の回収による収入45百万円等により97百万円の支出となりました。前年同期は13百万円の収入でありました。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入10億円、長期借入れによる収入5億円、長期借入金の返済による支出15億8百万円等により1億63百万円の支出となりました。前年同期は12億71百万円の収入でありました。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	267	12.53
柳 先	文京区小日向	112	5.24
株式会社北与野エステート	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	105	4.95
柳 允	さいたま市浦和区	100	4.72
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	100	4.68
株式会社サリックス	文京区小日向	78	3.68
柳 詠 守	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 京	白老郡白老町	55	2.62
柳 朱 理	三鷹市下連雀	55	2.62
株式会社Be-fresh	猿島郡五霞町大字元栗橋4668	53	2.50
計		987	46.17

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,126,700	21,267	
単元未満株式	普通株式 11,234		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,267	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 47株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	1,500		1,500	0.07
計		1,500		1,500	0.07

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,322,001	2,361,119
受取手形及び売掛金	789,745	514,608
商品及び製品	494,748	492,070
仕掛品	655	3,295
原材料及び貯蔵品	916,385	1,313,399
前払費用	373,645	369,885
その他	565,915	830,764
貸倒引当金	4,917	4,917
流動資産合計	8,458,179	5,880,227
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,601,289	3,456,796
機械装置及び運搬具（純額）	113,956	94,087
工具、器具及び備品（純額）	302,326	340,083
土地	6,126,249	6,126,249
リース資産（純額）	185,118	148,833
建設仮勘定	7,439	20,243
有形固定資産合計	10,336,379	10,186,293
無形固定資産		
のれん	47,071	35,669
その他	492,474	509,704
無形固定資産合計	539,546	545,374
投資その他の資産		
投資有価証券	147,767	148,498
長期貸付金	9,874	9,378
長期前払費用	305,645	279,161
繰延税金資産	274,263	208,130
敷金及び保証金	3,408,210	3,252,282
その他	34,150	32,780
貸倒引当金	26,762	26,697
投資その他の資産合計	4,153,150	3,903,533
固定資産合計	15,029,076	14,635,201
資産合計	23,487,256	20,515,428

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	882,865	636,515
短期借入金	4,162,493	4,640,107
リース債務	76,901	67,713
割賦未払金	255,801	263,000
未払金	445,882	406,070
設備関係未払金	43,955	58,542
未払費用	1,670,920	1,084,075
未払法人税等	323,088	73,389
未払消費税等	1,099,700	2,971
賞与引当金	109,708	119,021
転貸損失引当金	13,297	13,297
店舗閉鎖損失引当金	47,866	1,832
資産除去債務	7,447	39,292
その他	963,586	479,844
流動負債合計	10,103,513	7,885,675
固定負債		
長期借入金	6,495,184	6,009,321
リース債務	204,870	169,280
長期割賦未払金	779,316	692,413
繰延税金負債	185,546	186,974
役員退職慰労引当金	114,602	122,829
転貸損失引当金	9,539	2,890
退職給付に係る負債	457,813	429,077
資産除去債務	400,255	388,707
その他	345,411	356,466
固定負債合計	8,992,539	8,357,960
負債合計	19,096,053	16,243,636
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	1,281,067	1,399,320
自己株式	8,260	8,644
株主資本合計	4,365,155	4,246,518
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,409	15,712
為替換算調整勘定	1,411	2,171
退職給付に係る調整累計額	8,226	7,389
その他の包括利益累計額合計	26,047	25,273
純資産合計	4,391,202	4,271,792
負債純資産合計	23,487,256	20,515,428

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	12,108,684	10,261,896
売上原価	4,429,273	4,077,521
売上総利益	7,679,411	6,184,375
販売費及び一般管理費	1 8,931,751	1 8,001,923
営業損失( )	1,252,340	1,817,548
営業外収益		
受取利息	2,436	1,823
受取配当金	1,948	1,738
受取地代家賃	34,213	33,508
助成金収入	132,362	1,907,145
その他	13,547	15,733
営業外収益合計	184,507	1,959,949
営業外費用		
支払利息	46,233	57,786
支払手数料		48,500
賃貸収入原価	18,480	14,837
その他	1,345	482
営業外費用合計	66,059	121,606
経常利益又は経常損失( )	1,133,891	20,794
特別利益		
固定資産売却益		1,954
特別利益合計		1,954
特別損失		
固定資産除却損	23,923	4,461
減損損失	3,535	27,044
賃貸借契約解約損	125,045	11,557
特別損失合計	152,505	43,063
税金等調整前四半期純損失( )	1,286,397	20,314
法人税、住民税及び事業税	36,756	31,312
法人税等調整額	30,082	66,627
法人税等合計	66,839	97,939
四半期純損失( )	1,353,236	118,253
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	1,353,236	118,253

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失( )	1,353,236	118,253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,174	696
為替換算調整勘定	0	759
退職給付に係る調整額	1,039	836
その他の包括利益合計	4,134	773
四半期包括利益	1,349,102	119,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,349,102	119,026

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失( )	1,286,397	20,314
減価償却費	390,925	367,027
減損損失	3,535	27,044
のれん償却額	11,402	11,402
貸倒引当金の増減額( は減少)	69	64
賞与引当金の増減額( は減少)	51,921	9,313
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	6,568	8,226
転貸損失引当金の増減額( は減少)	6,648	6,648
店舗閉鎖損失引当金の増減額( は減少)	50,063	46,034
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	22,320	30,066
受取利息及び受取配当金	4,385	3,562
助成金収入	132,362	1,907,145
支払利息	46,233	57,786
為替差損益( は益)	816	17
固定資産売却損益( は益)		1,954
固定資産除却損	23,923	4,461
賃貸借契約解約損	125,045	11,557
売上債権の増減額( は増加)	61,691	275,136
棚卸資産の増減額( は増加)	195,956	396,975
前渡金の増減額( は増加)	2,737	20,976
仕入債務の増減額( は減少)	216,830	246,349
未払金の増減額( は減少)	18,378	39,811
未払消費税等の増減額( は減少)	377,115	1,112,808
未払費用の増減額( は減少)	362,408	592,139
預り金の増減額( は減少)	179,894	416,957
前受収益の増減額( は減少)	21,091	22,676
その他	162,664	22,194
小計	240,578	4,114,739
利息及び配当金の受取額	3,836	3,100
助成金の受取額	100,733	1,659,363
利息の支払額	40,637	56,554
店舗閉鎖に伴う支払額	85,980	6,076
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	4,008	188,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	222,537	2,703,093

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	92,019	144,925
有形固定資産の除却による支出	2,844	
有形固定資産の売却による収入		1,954
無形固定資産の取得による支出	26,339	39,677
敷金及び保証金の差入による支出	22,727	1,548
敷金及び保証金の回収による収入	91,530	45,961
預り保証金の返還による支出	4,000	6,200
貸付けによる支出	100	
貸付金の回収による収入	953	1,257
投資その他の資産の増減額（は増加）	68,707	46,091
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,160	97,086
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,800,000	1,000,000
長期借入れによる収入	740,000	500,000
長期借入金の返済による支出	1,093,486	1,508,249
割賦債務の返済による支出	120,010	114,165
リース債務の返済による支出	54,553	40,707
自己株式の取得による支出	199	383
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,271,751	163,505
現金及び現金同等物に係る換算差額	604	2,801
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,506,844	2,960,883
現金及び現金同等物の期首残高	3,568,119	5,116,119
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 5,074,964	<sup>1</sup> 2,155,235

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該変更による影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
減価償却費	370,878千円	331,067千円
賞与引当金繰入額	44,304千円	108,223千円
退職給付費用	33,265千円	26,023千円
役員退職慰労引当金繰入額	6,568千円	8,226千円
給料手当	3,872,674千円	3,456,652千円
地代家賃	1,961,809千円	1,868,852千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	5,080,843千円	2,361,119千円
預入期間が3か月を超える定期預金	5,879千円	205,883千円
現金及び現金同等物	5,074,964千円	2,155,235千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(収益認識関係)

「注記事項(セグメント情報等)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684		12,108,684
セグメント間 の内部売上高 又は振替高								
計	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684		12,108,684
セグメント損失 ( )	142,316	28,237	780,539	35,449	986,542	986,542	265,797	1,252,340

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては3,535千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。



当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収益	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896		10,261,896
外部顧客への 売上高	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896		10,261,896
セグメント間 の内部売上高 又は振替高								
計	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896		10,261,896
セグメント損失 ( )	595,807	127,531	810,220	46,170	1,579,730	1,579,730	237,817	1,817,548

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(注) 3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの損失の算定方法を同様に変更しております。当該変更が、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては2,274千円であります。「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上していません。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては24,769千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

( 1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)
1 株当たり四半期純損失( )	632円93銭	55円31銭
( 算定上の基礎 )		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	1,353,236	118,253
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失( )(千円)	1,353,236	118,253
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,048	2,137,916

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月15日

株式会社 安楽亭  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小 笠 原 直

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 武 史

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) １．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- ２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。